

## 第5章 経営基盤の強化

### 第1節 経営健全化の推進

近年における人口の減少化並びに節水型社会への移行等に伴い水需要の伸びは今後においても殆ど期待はできず、平成 25 年度以降における一部大口需要者の施設更新に伴う給水収益の更なる減収により、企業団を取り巻く経営環境は、極めて厳しい状況が続くものと予想されます。

このような状況を踏まえ、適正なる料金水準の設定を基本とする中で、最少の経費で最大のサービスを提供するため、電算システムの整備、委託化の検討と推進、定員管理の適正化などにより業務の効率化と経費の節減に努め、経営の健全化・活性化を推進します。

#### (1) 電算システムの整備

現在、施設運用面においては配水場制御用システムを、また、業務運用面においては水道料金調定収納システム、水道事業会計システム及び設計積算システムを導入しています。

今後、配給水管台帳など図面管理のデジタル化を推進し、更なる業務の改善と効率化に努めます。

#### (2) 委託化の検討と推進

近年、水道事業の委託・民営化は、PFI方式や指定管理者制度の導入など、公的サービス供給方式の多様化や規制緩和の急速な進展が見受けられます。

企業団では、経営の効率化、定員管理の適正化等を踏まえ、平成 13 年 1 月から配水場運転管理業務の一部を外部委託（平成 22 年度から委託範囲を拡大）するとともに、水質基準の強化に伴う検査体制の見直しにより、平成 16 年度から水質検査業務を全て（毎日検査を除く）外部委託といたしました。

今後においては、料金徴収業務の委託化等について調査・検討を進め、更なる経営の効率化と定員管理の適正化に努めます。

#### (3) 定員管理の適正化

電算システムの整備及び委託化の推進により、業務の効率化と経費の節減を図るとともに、定員管理の適正化に努めます。

## 第2節 財政見通し

現行料金で推移した場合における財政見通しは、次のとおりです。

単位：百万円

年度 区分		H20 (実績)	H21 (実績)	H22 (実績)	H23 (実績)	H24 (実績)	H25 (実績)	H26 (実績)	H27 (実績)	H28 (実績)	H29 (実績)	H30 (実績)	R1 (計画)	R2 (計画)
収益的収支	収入	2,193	2,191	2,176	2,165	2,154	2,161	(2,340) 2,111	(2,349) 2,123	(2,330) 2,105	(2,361) 2,142	(2,320) 2,104	(2,373) 2,165	(2,345) 2,143
	支出	2,099	2,123	2,077	2,057	2,040	2,062	2,334	2,073	2,046	2,046	2,029	2,152	2,073
	純損益	94	68	99	108	114	99	(6) △223	(276) 50	(284) 59	(315) 96	(291) 75	(221) 13	(272) 70
	繰越利益 剰余金	304	304	304	304	304	304	81	108	144	185	206	206	206
資本的収支	収入	577	320	311	587	317	78	77	89	137	103	115	141	241
	支出	1,895	880	917	1,115	929	948	785	809	829	806	908	984	1,303
	不足額	△1,318	△560	△606	△528	△612	△870	△708	△720	△692	△703	△793	△843	△1,062
翌年度繰越 補てん財源	455	576	677	865	991	855	829	807	819	846	795	677	429	

※H26年度以降の収益的収入及び純損益の上段( )書きは、長期前受金戻入(資金の裏付けの無い収入)を含み、下段はこれを抜いた額(現金性を有する額)を表示したものです。

※H26年度以降の収益的収入及び純損益は、長期前受金戻入を除いた額を表示したものです。

